

リーディングDXスクール事業【実践事例】

武雄市立川登中学校（佐賀県）【指定校】

<教育利用> ②「生成AIを活用していく上での情報モラル」

情報モラル（オリエンテーション）

生成AIを学校現場に導入する前に、教育委員会と協力し、情報モラル学習を実施。この学習では、

- ・生成AIに関する基本的な情報
- ・大規模言語モデルの基本原則（図2）
- ・情報の信頼性と検証の重要性

に焦点を当てた。これに基づいて、生成AIを適切に活用するための留意点や約束ごとを生徒自身に考えさせた。個人のオリジナル性が求められる場面では使わないなどの意見が出された。

情報モラル（ファクトチェック）

ChatGPTが生成する情報の真偽について考える授業を実施。Chat GPT上で佐賀県を紹介するキャラクターを作成し、チャット形式で佐賀県の観光スポットや名産品などを紹介させた。会話を進めていくうちに、実在しない店名や特産品が示され、生成AIが作成したものには間違いがあることを再確認した。生成AIを活用する際の問題点を検討し、問題点に対処する方法について話し合い活動を行った。生成された情報をさらに検索にかけて、情報の真偽を確かめる生徒も見られてきた。

2

生成AIのしくみ

大規模言語モデル

大量のデータから、次に来る確率の高い単語を予測するように訓練されたシステム

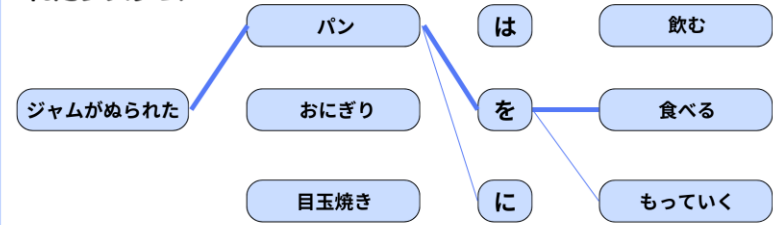


図2



ファクトチェックを効率的に、かつ正確に実施するためには、信頼できる情報源を見つけることが重要になります。

<信頼できる情報源の例>

- 1) 公的機関・行政機関のWebサイト
- 2) 専門家が発表する情報
- 3) 企業や組織の公式サイト
- 4) 新聞記事
- 5) 論文・科学技術文献

図3